

浮世絵とは？

浮世絵は、木版画を中心とした庶民向けの絵画で、江戸時代から明治まで流行しました。当初は単色刷り・筆彩色の木版画と一点ものの肉筆画で、美人や役者などの当時の最先端の社会風俗を描いていましたが、やがて「錦絵」とも呼ばれる多色刷りが可能となり、日常の生活風俗や名所の風景なども題材として取り上げられるようになりました。本来、ポスターやチラシのような存在の浮世絵でしたが、明治以後になつて海外に流出し、その独特な表現や技法が、ゴッホをはじめ世界の芸術家たちに大きな影響を与えました。

主な絵師たち

(初期 一六五七〜一七六四年)

☆ **菱川師宣** (?〜一六九四年)

浮世絵の原様式を創成し、浮世絵版画の祖と呼ばれる絵師。枕絵や名所絵、絵本や浮世草子等の挿絵に加え、肉筆画でも「見返り美人」をはじめ多くの優れた作品を残した。

(中期 一七六四〜一八〇一年)

☆ **鈴木春信** (?〜一七七〇年)

平賀源内と協力して、華やかな多色刷り「錦絵」の技法を開発。また、作品の中に、古典の和歌や説話等のテーマを謎かけとして描き込む「見立絵」を得意とした。

☆ **喜多川歌麿** (二七五三?〜一八〇六年)

世界的に知られている浮世絵師の一人。版元・葛谷重三郎に見出され、美人画の第一人者と称された。人物の上半身だけを描く大首絵というスタイルを創案。

☆ **東洲斎写楽** (生没年不詳)

歌麿と同じく、葛谷重三郎に見出され、一七九四年にデビュー。わずか十カ月の活動期間に、大胆なデフォルメによる個性的な役者絵を数多く発表。世界的にも評価の高い、謎の絵師である。

☆ **歌川豊国** (二七六九〜一八二五年)

一七九四年に描いた「役者舞台之姿絵」というシリーズで一躍、当代の人気絵師となる。後進の指導にも力を入れ、彼の一門からは多くの優れた絵師が登場した。

(後期 一八〇一〜一八六八年)

☆ **葛飾北斎** (二七六〇〜一八四九年)

世界的にも最も著名な浮世絵師。「富嶽三十六景」に代表される版画の名所絵をはじめ、絵手本の「北斎漫画」、「椿説弓張月」等の読本の挿絵、肉筆画、多くのジャンルに名作を残した。

☆ **歌川広重**／**安藤広重** (一七九七〜一八五八)

火消し同心の武士である安藤家の長男として生まれるも、絵描きを志し、歌川派の門人となる。「東海道五十三次」の版画シリーズで、風景画家として大ブレイク、その後も多く風景、名所のシリーズものを制作した。